

《担当者名》榊原健一

【概要】

医療系専門職業人として必要な論理的、科学的な作文能力を身につけるために、科学的文章を実際に作文し、文書作成のための思考方法、作法を学習する。

【学修目標】

科学的な文章が書けるように、適切な国語能力、客観的かつ論理的な文章を書くための思考方法を身につけ、科学的文書の書式に則った作文の作法を学習し、作文能力を身につける。具体的な目標は以下である。

1. 科学的な文書の一般的な書式について説明できる。
2. 簡単な科学的文書を短く要約し、要旨を抽出することができる。
3. 自分の考えを他人に理解してもらえるように文章に表現することができる。
4. 科学的文書の一般的な書式に従って論理的な簡単なレポートを書くことができる。
5. 論理的に整合性のある文章を書くことができる。
6. 参考文献の引用を一般的書式に従って行うことができる。
7. 資料からの引用と、自分の考えとが明確に区別された文章を書くことができる。
8. 誤字脱字のない正しい文書を書くことができる。
9. 用語を正しく用いることができる。
10. 自分、他人の書いた文書を正しく推敲することができる。

【学修内容】

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|----|---------------|----------------------------------------------|------|
| 1 | オリエンテーション | 授業の目標と全体の流れを把握する。 | 榊原健一 |
| 2 | 科学的な文書の書き方(1) | 論理構成の方法、科学的論文の書式を説明できる。 | 榊原健一 |
| 3 | 科学的な文書の書き方(2) | 引用の意味、事実と推測の違いを説明できる。 | 榊原健一 |
| 4 | 要約(1) | 具体例に沿って、要約、要旨の抽出の方法を学ぶ。 | 榊原健一 |
| 5 | 要約(2) | 前回の講義の要約例への質疑応答を行う。 課題を提示(課題評価) | 榊原健一 |
| 6 | 論理構成(1) | 論理的な思考による、論理的な文章の書き方を学ぶ。 | 榊原健一 |
| 7 | 論理構成(2) | 箇条書きの項目から、論理的な文書を構成できる。 添削された文書を説明できる。 | 榊原健一 |
| 8 | 論理構成(3) | 題、節や小節の見出しを作り、文章全体の論理的な構成を構築できる。 | 榊原健一 |
| 9 | 課題抽出の方法 | レポート、論文等の作成に必要な課題の扱い方を、抽象化、具体化、仮説の立て方を通して学ぶ。 | 榊原健一 |
| 10 | 作文(1) | 簡単な作文課題を提示し、作文を行う | 榊原健一 |
| 11 | 推敲、校正の方法 | 推敲の方法、校正の一般的な書式について学ぶ。 | 榊原健一 |
| 12 | 作文(2) | 自分が作成した作文を推敲し、また、他人の作成した作文の校正を行うことで、推敲校正を学ぶ。 | 榊原健一 |
| 13 | 作文(3) | 課題を自由に設定し、文書作成の方法で文書の概要をスケッチし、文書を作成する。 | 榊原健一 |
| 14 | 作文(4) | 作成した文書を添削し完成する。 | 榊原健一 |
| 15 | 作文(5) | 添削をもとに最終的に推敲し文書を提出する。 | 榊原健一 |

【授業実施形態】

遠隔授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

【評価方法】

提出課題(2つ) 100%

【教科書】

木下是雄 著 「レポートの組み立て方」 ちくま学芸文庫 1994年

【参考書】

Olsen, L. A. 著 「Technical writing and professional communication」 McGraw-Hill College 1991年

岩崎美紀子 著 「「知」の方法論 論文トレーニング」 岩波書店 2007年

小笠原喜康 著 「新版 大学生のためのレポート・論文術」 講談社現代新書 2009年

木下是雄 著 「理科系の作文技術」 中公新書 1981年

戸田山和久 著 「論文の教室 レポートから卒論まで」 NHKブックス 2002年

酒井聡樹 著 「これからレポート・論文を書く若者のために」 共立出版 2007年

塚本真也 著 「知的な科学・技術文章の徹底演習」 コロナ社 2007年

【学修の準備】

各講義時での宿題・提出物を準備しておくこと（予習、復習など課題の取り組み時間の目安としては1コマに対して160分程度）。また、授業で用いる動画、資料、課題やレポートの提出は、本学で利用している学修管理システムを用いる。使用方法については、授業内で教示する。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP1）生命の尊厳と人権の尊重を基本とした幅広い教養、豊かな人間性、高い倫理観と優れたコミュニケーション能力を身につけている。